

被災所見舞

東北地方太平洋沖地震被災により被害を受けられた会員およびご家族のみならず、皆にむけてお見舞い申し上げます。地震の被害は一日も早く復興と心より祈っております。



公益社団法人 日本災害協会
会長 白沼武能

協会では東日本大震災直後から、被災地域在住の会員119名中54名に対し、電話および往復はがきで、お見舞いと被害状況の調査を行った。幸い人的被害はなく、家屋や機材等に一部被害があった旨の回答をいただいた。被災状況の回答では、1、自宅や事務所の全壊なしは12名、半壊1名（屋根瓦が破損）、軽微13名（壁面の落下や塀が倒壊）。2、現在のライフラインの状況についてはガスが使えない5名、水道4名、電気4名、ガソリン2名、金融1名。3、メッセージは下欄に掲載した。

公益法人の主務官庁の内閣府からは、貴団体でどんな支援活動ができるか、また今後の支援体制の方策についての問い合わせがあった。また、文化庁（文部科学省）からは、被災地の子どもたちを救済するための活動計画等についての質問も来ており、協会として被災者救援のための具体的な活動計画を、総務委員会を中心にプロジェクトチームを作り対応することになっている。

その第1弾が4月29日から5月5日まで催す、「東日本大震災被災者支援チャリティー写真展」であり、すでに出展会員が250名、700点を超える作品が集まっている。また「義援金募集」も行っており徐々に集まっている。さらに、被災地にいち早く取材や救援に向かった会員諸氏の情報をもとに、現地では「どんな支援が求められているか」についての要望や受け入れ態勢についてご意見を集約し、「どんな支援が長期にわたってできるか」を検討することになっている。会員諸氏におかれましても意見や支援についての具体的な方法をご提言いただきたい。プロジェクトへの参加者も募集しています。

（記/専務理事松本）

●被災地在住会員からのメッセージ（順不同）

八重樫知同（青森県）：私の所は、陸奥湾に面していて、助かりましたが、太平洋岸の友だちは、家や車を失いました。

北條光陽（岩手県）：現地は、ただ悲慘としか言葉が出て来ません。

吉田範雄（宮城県）：福島原子力発電が不安です。この際、世界中の原子力発電をなくさないと地球が破壊する。広島と長崎に原子爆弾を落とされた国が、原子力発電をする気持ちが分からない。

佐藤浩規（宮城県）：被災地を撮影しております。ニュースで掲載可能でしたら提供いたします。実態を見ていただきたいです。

細田満夫（宮城県）：ようやく入手できたガソリンを満タンにし、被災地を可能な限り回りました。わたしは元々、新聞社出身で多くの自然災害取材経験がありますが、それらと比べ今回の規模はケタ違いのエネルギーでした。78年6月の「宮城県沖地震」の被災者

東日本大震災被災

＜2011. 3. 11東日本大震災被災地域会員ルポその1＞

●3月15日 宮城県気仙沼市 吉川謙

西宮の自宅から北陸道山形仙台を経て13時間、15日未明、気仙沼に入る、停電で真っ



暗な町。（中略）夜が明けるとニュース映像で見知っている風景、瓦礫の山が目飛び込んできた。無言。（中略）登っている途中に出会ったおじさんが、海に向かって左側に見える鹿折地区で造船関係の鉄工所を営んでいたけど工場は跡かたもなく流されてしまったと。（中略）つぎに目に付いたのが上下黒ずくめのご婦人、足を投げ出して座りこんでいる、じっと一点を見つめている姿に声をかけるのをためらうが、話を聞いてみると、ご主人が津波にのみ込まれて流されてしまったこと、酒屋をやっている主人が店の大事なものを車で運び出す準備をしているときに津波にのみ込まれたこと、その瞬間二階に上がる階段の手摺りにつかまりながらいっぱいに伸ばした手に夫の手が触れたこと、二階には体の不自由な老父母が居たこと、津波は、あっというまに二階まで来たこと、泣きながら屋上の物干しへ上がってなんとか助かったこと、隣の一人住まいの老女が一緒だったこと、老父母は二階の居間で溺死したこと、その遺体がまだ半分傾いた家の二階にあること、行方不明の夫の届けと二階の二人の遺体の運び出しのお願いを紙に書いて役所に届けようと思うけど書き方はこれでいいでしょうかと私に見せた。（中略）

●3月16日 宮城県仙台市 矢野清孝

M9.0の大震災から2週間あまり過ぎました。事務所内

であり取材者でもありました。人生で2度も死の恐怖を味わう地震に遭遇するとは思ってもみなかったことでした。被災者の方のご冥福をお祈りいたします。

門山隆（宮城県）：お見舞いありがとうございます。幸い、私の自宅と事務所は軽微な被害で済みましたが、今後の東北全体の経済状況はどうなるのか、大変不安に思っております。

矢野清孝（宮城県）：戦争、隣国や人間を憎む。自然災害の苦しみ、何処へ、海沿いの被災地へ通う度に想う。同じ東北の一員として復興した姿が新たなアルカディアとなる日を切に願っています。

佐々木元彦（茨城県）：撮影機動力のガソリンが無かったので出掛け取材であった。

藤井正夫（茨城県）：3月11日の東北関東大震災では、茨城県水戸市も（自宅は瓦屋根が破損）する。また、文化財などにも大きな被災が出た。

災者の皆様 お見舞い申し上げます



は棚から物が落ちて壊れるなどしましたが、幸いにも自分・家族と

もに無事でした。食料などの物資は少しずつ入ってきているものの、ガソリン不足は未だ解消されず、ひどい時は13時間並んで3,000円分だけ給油できるなど撮影の足が思うように確保できないのが現状です。また、モノクロフィルムを主体に撮影しているのですが、つい先日まで断水が解消されず、現像もできませんでした。記録用にデジタルカメラで撮影しておりました、写真は場所は仙台空港近辺です。

●3月25日 宮城県南三陸町 内堀タケシ

3月25日に出生し、宮城県の被災地へ支援物資を届けて来ました。



東松島市、石巻市、牡鹿半島、南三陸町など被害の程度は場所によって様々でしたが、電気、ガス、水道が通っていない所も少なくなく、未だ瓦礫が道を塞ぎ、復興にはほど遠い現実がありました。

壊滅という町…被瓦礫の中から潰れた乳母車のタイ

ヤが突き出て、潮とヘドロの混ざった臭いが鼻を衝く、人々の暮らしが決定的に破壊されたのを実感しました。南三陸町では、高さ16mの高台も津波にのまれた痕が残り、海岸から山側に3km入った海の見えない所の家まで津波の瓦礫で押し潰されていました。

●3月28日 宮城県石巻市 細田満夫

「東北関東大震災」発生から17日目の3月28日、甚大な被害を受けた宮城県石巻市をルポしました。未曾有の大災害となつた

M 9.0の超巨大地震のもとらした大津波の爪跡はすさまじく



底知れぬ自然の力を目の当たりにしてきました。震災後、半月以上たった石巻市の現状は、ようやく道路のガレキが脇に押しつけられた程度です。その間を縫うようにして自衛隊や全国から応援に駆け付けた警察の車両などが走り回っています。一般車両はガソリンなどの燃料不足で、往来する数は多くはありません。従って、給水所などに向かう市民の足はもっぱら自転車でした。海沿いの住宅地や水産加工工場などが林立する石巻港周辺の被害はとりわけ甚大で、ほぼ壊滅的な状態です。市民生活に不可欠のライフラインの復旧は遅々として進まず、約2万5千人の市民がいまだに避難生活を送っています。

(※今後もニュース等で、東日本大震災関係の状況を掲載していきます。会員の皆さんの写真と原稿をお寄せ下さい。)

井出のりお (千葉県) : 幸い私の所は丘の上の住宅街で、何事もありませんでした。ありがとうございました。

室伏勇 (茨城県) : 田沼会長のお見舞いありがとうございます。お陰様で被害は塙の倒壊のみ、茨城の被害で忘れられているのは沿岸の津波。那珂陸、大洗、平潟、大津などひどかった。気の毒でカメラを向けられなかった。

安藤豊 (茨城県) : 今回は被災地以外でも日本の受けたダメージは大きく震災の復興が日本再生となるよう尽力を惜しまぬ所存です。今後再生する日本の姿を記録して後世に残すことが現在に生きる写真家の使命と存じます。(妹柳)

鈴木康一 (茨城県) : ニュースでは東北地方が主に報道されていますが、茨城県も被災地です。茨城をもっと報道してほしいと思います。多少ではありますが、被害現場の写真がありますので、提呈はしてい

きたいと思います。

富山愛子 (千葉県) : 私は無事です。見舞い、ガキ有りありがとうございます。被災者の方にお見舞いを申し上げます。早く復興する事を祈ります。

大塚雅貴 (千葉県) : 千葉市内に住んでいます。海に近い埋立地などでは液状化の被害が出ているものの、こちらはやや内陸なので強いにも機材などが落下するなどの被害はありませんでした。海外の知人からは多くのメールをいただき、注目度の高さを感じております。関東、東北地方(などの被災地)の一日も早い復興を願っています。

松野正雄 (千葉県) : ご心配ありがとうございます。私の家は塙さまで棚の物が少し落ちた程度で被害はありませんでした。

松本尚士 (千葉県) : 当社のブロック塙が40cmくらい三角に壊れ落ちる。